

真鍋晶子 教授

略歴と業績

略歴

真鍋晶子(まなべ あきこ)

学歴

- 1979年 3月 京都教育大学教育学部附属高等学校卒業
1984年 3月 京都大学文学部文学科英語学英文学専攻卒業
1988年 3月 京都大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻博士前期課程修了
1995年 1月 カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校大学院英文学専攻修士課程修了

職歴

- 1989年 4月 大谷大学文学部(特別研修員)(~1990年3月)
1996年 4月 滋賀大学経済学部(講師)(~1998年3月)
1998年 4月 滋賀大学経済学部(助教授)(~2005年3月)
2005年 4月 滋賀大学経済学部(教授)(~2026年3月)

所属学会

International Association for the Study of Irish Literatures, Japan (2025~会長, 2000~2006 事務局長、理事) / IASIL(2025~Vice Chair) / 国際イエイツ協会(Board Member) / 日本アイルランド協会(理事、副編集長, 2017~23事務局長) / 日本イエイツ協会(理事) / 日本バウンド協会(理事) / 日本ヘミングウェイ協会(運営委員) など

その他の主な大学内委員

学長補佐(国際・文化担当) / 国際センター副センター長 / 留学生センター副センター長 / 経済学部国際交流委員長 / 経済学部ハラスメント委員長など

社会における主な活動

彦根市行政評価委員 / 彦根市教育委員会(2021年から観光文化戦略部) 指定管理者候補者選定委員 / 彦根市教育委員会事業評価審査委員 / 彦根城址維持管理等業務および彦根城博物館受付業務委託事業者選定に係る公募型プロポーザル審査会審査員 / びわこ放送番組審議委員 / (公財) 堤康次郎記念育英財団奨学生選考委員 / 彦根市井伊直弼と開国150周年ファイナルイベント実行委員長 / 日愛外交関係樹立60周年事業・茂山千五郎狂言アイルランド公演実行委員長 / 彦根ゴーストツアー(彦根市)代表など



業績

著書(共著一担当する章は単著)

“Chink and Hem—Friendship with Eric Edward Dorman=Smith (O’Gowan)”
(*Hemingway Studies in Japan*, Florida State Open Publishing, 2026年)

“A Country Over the Wave: Japan, Noh, *Kyogen*” (*The Oxford Handbook of W.B. Yeats*,
Oxford U. P., 2023年)

“The Pure Cold Light: Yeats’s and Hearn’s Influence on Contemporary Performing
Arts in Japan and Ireland” (*Ireland–Japan Connections and Crossings: Celebrating Sixty-Five
Years of Diplomatic Relationships*, Cork U.P., 2022年)

“W.B. Yeats, Ernest Fenollosa & Lafcadio Hearn: Triptych or Bridge between Japan
and the West” (*Yeats and Asia: Overviews and Case Studies*, Cork U. P., 2020年)

「日本とアイルランドが出逢う舞台—ウィリアム・バトラー・イェイツと能狂言」(『アイルランド
を知るための70章[第3版]』、明石書店、2019年)

「エズラ・パウンドの詩学—ふたつの大戦と地上の楽園—」(『モダニズムを俯瞰する』、中央大学
出版部、2018年)

“Literary Style and Japanese Aesthetics: Hemingway’s Debt to Pound as Reflected
in his Poetic Style” (*Cultural Hybrids of (Post) Modernism: Japanese and Western Literature, Art
and Philosophy*, Peter Lang, 2016年(編集も))

『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』(フィギュール彩26(彩流社)、2015年)

「アシュリング詩：正統なる王を待ちこがれる美女エーリン—ゲールの心を紡ぐ夢幻詩・
ジャコバイト詩」(『アイルランド文学 その伝統と遺産』、開文社出版、2014年)

「『老い』の詩学—ヘミングウェイの1940年代以後の詩を中心に」(『ヘミングウェイと老い』、松籟
社、2013年)

主な論文(単著)

“The Early Reception of Irish Literature in Japan: Lafcadio Hearn’s Introduction of W.B.
Yeats in Japan” (*Journal of Irish Studies*, Vol. 39, IASIL Japan, 2025年10月)

“*Kyogen* for Yeats and Pound” (『イェイツ研究』54号(日本イェイツ協会) / *Ezra Pound Review*,
No.26 日本エズラ・パウンド協会) 同時掲載、2024年2月)

「ヘミングウェイの詩と文体」(『ヘミングウェイ批評 三〇年の航跡』、小鳥遊書房、2022年)

“Are you that flighty? I am that flighty: *The Cat and the Moon and
Kyogen Revisited*” (*International Yeats Studies*, Vol 5: Iss.1 Article 6, 2021年4月)

「ハーンのアイルランド」(『季刊 民族学 170号 特集 小泉八雲の怪異研究』/国立民族博物館、2019年)

「パウンド、イェイツ、ヘミングウェイの日本との邂逅：狂言とヘミングウェイの詩をめぐって」
(『東京女子大学紀要77号』、東京女子大学比較文化研究所、2016年)

「W.B. Yeats and *kyogen* : Individualism & Communal Harmony in Japan’s Classical
Theatrical Repertoire」(*ÉTUDES ANGLAISES revue du monde anglophone*, Dirier Erudition,
Klincksliiek, 2015年12月)